

## 新旭岳ビジターセンターがオープンします！

環境省は、既存のビジターセンターの老朽化や東川町で取り組んでいるエコツアーリズム推進の動きに対応するため、新しいビジターセンターの整備を行いました。その新旭岳ビジターセンターが今年6月、いよいよオープンします。

～新旭岳ビジターセンターはこんなところ～

- 登山に関する情報収集・発信基地  
旭岳や黒岳などの日帰り登山や、トムラウシや十勝岳連峰の縦走登山など、さまざまな登山の玄関口として、登山者が安全に楽しめるよう、情報を発信します。
- エコツアーリズムに関するエコツアーの開催  
地域固有の自然や歴史などの資源を保全しながら、その魅力を体験するプログラム（エコツアー）を開催します。（例：通年でやっているフォトトレッキング講座など）
- 外国人にも対応したインフォメーションデスクの設置  
登山以外の周辺自然情報や、ツアーガイド情報、旭岳温泉地区周辺や東川町の観光情報の案内を行います。
- 休憩コーナー  
東川家具や東川に関する書籍を並べ、書籍を読みながらくつろいだり、散策や登山から戻った後の休憩所として利用できる休憩コーナーを設置します。



Nature Column (ネイチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々たちをリレーしています。



館内ジオラマと登山情報展示

そのほか、天候不良によるロープウェイ運休時や外で活動できない場合にも楽しめる室内プログラム、火山の成り立ちを紹介する映像展示、これまでのビジターセンターと同様に、大雪山国立公園の自然や歴史をわかりやすく説明した展示があり、室内でも十分に楽しめます。

観光客だけでなく、地元の方々も大雪山国立公園や東川町の自然について再発見できる施設となっています。子どもから大人まで誰もが訪れて楽しむことができる、東川町の魅力の一つとなる施設を目指して、今後関係機関と連携していきます。

皆様もぜひ、お立ち寄り下さい。

環境省東川自然保護官事務所 齋藤 明光



タイのお坊さんは日本と同じ？

東川町国際交流員（CIR）  
スミッタ・エクワワーニット

日本に来て一番びっくりしたことは何ですか？とよく聞かれます。たくさんある中、一つだけ紹介します。それは、高2で初めて日本へ留学しに来て、日本のお坊さんと握手した時でした。タイのお坊さんは、一切女性に触れることができないので、とてもびっくりしました。

時々テレビでも見たことがあるかと思いますが、タイの僧侶はいつもオレンジ色の服を着ていますね。それは、お坊さんの制服のような物で、スーツや私服は絶対に着ません。



昔から、タイの僧侶は、お釈迦様の教えを人々に伝える役割を持ち、とても尊敬される存在です。また学校がなかった時に、お寺は学校として使われ、僧侶が子ども達に読み書きも教えていました。僧侶になるには、先生の役割だけではなく、仏教を学び、227の規則を守らなければなりません。日本のお坊さんと違って、お酒もタバコも女性に触れることも、結婚することもできません。規則を守らなければ、僧

侶を辞めさせられます。

タイは仏教徒が国民の94%とされ、一般的な生活にも仏教の教えが根付いています。特に徳を積むことを「タンブン」といい、タイ人はタンブンを大切にしています。例えば、日々お寺に行つて僧侶の食料を届ける人もいますし、困つた人を助けるといふ行為もタンブンとなります。災害時の支援やボランティア活動もその一つで、他国の慈善団体の活動とは動機が異なっていることが多いです。タンブンは徳を積む為で、すなわち次の人生で自分が良い状態で生まれ変わる為に動くというわけです。そんなタンブンのうち、最も徳が高いとされるのが「出家」で、タイでは男性なら一生に最低一度は僧侶になることが当たり前で、出家が親孝行になるとも考えられています。

日本もタイも仏教国ですが、かなりの違いがありますね。日本に来て、最初は色々びっくりしましたが、だんだん慣れて来て、違ふ所があるからこそ面白いと思つようになりました。

そして、他国との違いを見つけては、自分の国のことも「どうしてこうなっているのか」と考えるようになりました。皆さんも機会があれば、多文化を知つて、自分のことや母国のことをもっと違う観点で見えてみてください。意外と色々考えさせられて面白いと思いますよ。